

2025.8.24 (木)
第4回例会
(通算3813回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために 手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 会員卓話「挑戦への奇跡」(プログラム委員会)

次週例会 納涼ビアパーティー (親睦活動委員会)

- ロータリーソング：それでこそロータリー ■ソングリーダー：八幡 好洋君
- 会員数 105 名
- ビジター 弟子屈ロータリークラブ 渡辺 明子君
- ゲスト

会長の時間 荒井 剛会長

食事中の方はそのまま食べていただければと思います。今日は本当に気温が高くて、高くて。釧路の方からしても笑っちゃうほど高い感じがありますが、これもまた短い夏ではあると思うのですけども、楽しんでいただければと思っております。さて、今日はロータリーの「月間テーマ」についてお話したいと思います。毎月、特別月間としてロータリーが設定しているものがあります。7月は『母子の健康』がテーマとされております。元々、この母子の健康は4月だったらしいのですけども、いろいろあって新年度のスタートで一番力を入れてほしいという意味で母子の健康が7月になったと聞いております。今日は、母子の健康に関するお話として2つご紹介させていただきます。ひとつめは、寄付をいただきましたというお話です。釧路ロータリークラブに以前お勤めになっていた青島さんからご連絡いただきました。「ロータリークラブに寄付をしたい」ということでこの間、会ってまいりました。「母子の健康のために使ってほしい」ということで、用途を特定して寄付ができるので、金額としては 1000 ドルをお預かりしました。青島さんからいただきましたので、ここで皆さまにご報告させていただきます。



きちんと私たちのほうで責任をもって、釧路ロータリークラブからロータリー財団に母子と健康のためにと、その用途を定めて寄付をさせていただくことになります。改めましてありがとうございますと申し上げたいと思います。

もうひとつが、母子の健康に関するロータリー活動でどんなことをやっているのか簡単にふれながら、ある映画を紹介したいと思います。

その映画は、今月の『ロータリーの友』でも紹介されていきました。まず、ロータリー活動としてどんな母子の健康をやっているのかです。いろいろな感染症の予防、後進国だと母体が感染をして早めに亡くなってしまうとか胎児も栄養失調のため亡くなってしまうとか、そのような教育も含めて、ロータリーは医療の充実等に補助金を使って活動をしています。他に、ここ 2500 地区では昨年度は、小谷ガバナーの下で小中高生に生理用ナプキンを配る活動をされておりました。生理用ナプキンというのがなかなか触れづらいテーマではあるのですが、そこをテーマとして掲げて実際に生理用ナプキンを配りました。男性の場合は馴染みがないわけで、実際には買いたくても買えないあるいは、生理用品と生理に関する知識があまりない小中高生がいるので、そういった教育を実践したのが去年の 2500 地区での活動となっています。

その関係で私が紹介したい映画があると話したのですが、ロータリーの友にも載っていた『パッドマン』、パッドマンではないです。パッドマンのパッドとは生理用ナプキンのことです。このパッドマンは、「5億人を

救った人たち」というサブタイトルで、これはインドの映画なのです。

これは実話に基づいて作成された映画で、ロータリーの友に載っていたので、ちょっと見てみようかなと思っていました。昔に『マハラジャ』とかいろいろ流行っていたと思うのですが、僕がインド映画を見たのは初めてで、2時間ぐらいの映画なのですが、ノンストップで最後まで見ていて、純粋に感動しました。生理を扱ったテーマなのですが笑いありで、展開がなかなか早くて。内容はインドの貧困地区で自分の奥さんが生理になったのを見て、なかなか生理用品を手に入れないので、どうすればいいんだということで薬局に行って、手に入れてそれを渡したところ、「男の人はそんなことはやらなくていい」というか、「生理というのは汚らしいものだ」という風習があって、ご主人が助けようとしても誰も受け入れてくれないのです。どうしようかと自分でいろいろ努力して発明して、最終的にそれは発明賞までいただいてインドの女性に届けられるようになった、成功を収めた人の話なのです。

これは、かなり昔の話なのかなと思ったら、実は1998年にこの男性が自分で製造して5億人まで売ようになった最初の話なのです。それがパッドマンという映画になっております。これは本当にストーリーもよくできていますので、ぜひぜひ見ていただきたいです。

どこで見られるのかというとNetflixです。Netflixに入っていない方はコンビニなどで1000円、2000円払えば少しの期間見られます。Netflixでの配信は確か8月20日で終わってしまうので、もし余裕があれば2000円ですのでぜひぜひ見ていただければと思います。

本日は母子の健康にまつわる話として寄付の話と映画の話を紹介させていただきました。

今日は待ちに待った齋藤理事長のお話ですので、後でたっぷりお話を聞きたいと思っていますので、会長あいさつはこれで終わらせていただきます。

ありがとうございました。

幹事報告 横田 英喜幹事

幹事報告をさせていただきます。先週の金曜日7月18日に荒井会長と私で武修館高校に行って、インターアクトクラブの件について校長先生、教頭先生とお話をしてきました。去年一年間の決算報告、これからどうやって関わっていききたいか、をお話させていただきました。今年については、「報告例会を開催したい」とお伝えしてまいりました。

もうひとつあります。本日、お越しいただいた齋藤理事長より弟子屈の病院の山ぶどうで作られたワインを「皆さんで」としていただきました。ホテルに置かせ

ていただいて、来週の夜間例会で皆さんと味わいたいと思います。また、障害者の施設で作られたサバ缶もいただいておりますので、ご報告させていただきます。以上となります。

新入会員紹介

スポンサー 荒井 剛会長



私からご紹介させていただきます。平岩修さん、株式会社ユタカコーポレーションです。佐藤さんの後任として代表に就任されましたの

でユタカコーポレーションとして入っていただきました。

家族は奥さんと暮らしておりまして、ゴルフ、麻雀は残念ながらされないということです。先ほど、どのようなことが趣味ですかとお話をしたところ、「仕事が趣味です。土日もしっかりと仕事をしています」とおっしゃっておいりました。ずっと釧路の方なので「自然とか何か嗜むことあるのですか」とお話をしたところ、平岩さんは釧路カヌーショップヒライワでカヌーを作られている弟さんのお兄さんにあたるそうです。私もそのカヌーで川下りを経験したことがありますので、ぜひカヌーをされる場合には、そのカヌーショップヒライワさんを通して乗っていただければと思います。

では、ご本人からお話をしていただきたいと思います。

新入会員

株式会社ユタカコーポレーション

代表取締役 平岩 修君



皆さん、こんにちは。ユタカコーポレーション代表をやっています平岩修と申します。ただ私、ユタカコーポレーションには1年半前

まで、7年間お世話になっていたのですが、2023年12月に一度退職をしました。去年の8月から去年いっぱい湿原の中にぼーっとしておりましたので、一応、今までの業界の垢を落としたという世界です。

先ほど紹介いただいたように、今年になってから、「ちょっと戻ってこないか」という話がありまして、それで戻りまして今の職に就いたのです。元々、ユタカにいたものですから会社の内情は重々承知をしておりますので、そこでユタカをもう一度もっともっと良

くしてくれということで社員一同いま頑張っている最中です。
また、皆さんのお力を借りなきゃならないかなと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

■本日のプログラム■ 会員卓話「挑戦への軌跡」

プログラム委員会 藤井 敬亮委員長

プログラムの藤井です。本日は齋藤メディカルグループ代表というお立場で、2023年『ニューズウィーク』の日本版に「2024年の世界を読む」という特集の中のキーパーソン10人のお一人としてインタビュー掲載されていました仲間でございます。

荒井会長の希望により、「挑戦への軌跡」と題して事業の成果、今後の展望をお話いただきたいと思います。それでは齋藤理事長、よろしくお願いいたします。



会員卓話

医療法人共生会川湯の森病院

理事長 齋藤 浩記君

皆さん、ご無沙汰しております。齋藤浩記です。よろしくお願いいたします。いまニューズウィークのお話がありましたけれど『世界の10人』の中に入っていたわけではありません。表紙ではなくて「CHALLENGER」という特集ページに載りました。私の前のページが岸田元首相、その前がプーチン大統領で、その前が大谷翔平君、私の後ろが小池百合子さん、その中で私の写真が一番大きいという物です。

今日も久しぶりに不良会員みたいな感じで少し緊張していますが、雑誌の中でも存在感だけは大きく、生意気な感じで「俺が齋藤だ!」というように、ニューズウィークに載ったという経緯があります。

今日は荒井会長からお話をいただきました。釧路には月に1回は診療に来ています。それ以外で来るのがなかなかなくて、和商市場で何かを買ってという形以外では釧路に來られていなかったのです。こういった機会をいただきありがとうございます。先ほどのロータリーの歌を歌っていて、「遠くにいたら手を振ろうよ」と。ああ僕は手を振られたのだなということを思

いました。これを機にやはり参加させていただきたいと正直思った次第です。なかなか毎週とはいかないと思うのですが、普段、東京にすることが多いので、メークアップしながら、こちらにも伺って皆さんと語り合えればいいなと思っています。

私の自己紹介が入りつつですが、今日は『挑戦への軌跡』という題を付けさせていただきました。私がずっと喋っているよりも、これは2年前か3年前にテレビ東京系で『Doctor's eye』という医師に焦点を当てた番組があり、そこで紹介されたビデオがありますので14分ぐらいで少し長いかもしれませんが、ご覧ください。私が川湯に最初に来たときは、甲賀先生に大変お世話になりました。私は清水輝彦先生の縁でこちら釧路ロータリーに入りましたし、来た当時の釧路医師会会長は久島先生でした。そんなご縁があり釧路ロータリーのメンバーになっているのです。

東京からこちらに来て、川湯を軸に展開をして、オホーツクにも行きました。その後、北は北海道から南は九州まで日本中にいま法人がありますが、3年前の当時はまだそこまではなかったのです。特に東北道のかなかでも、釧路管内で主に行っていたことが紹介されています。先ほど紹介のワインのことは出てこないのですが、病院ながら農園園芸課という部署を持っていて、地元の自生している山ブドウと、自社農園で育てているブドウを使って、収穫してから陰干しをして、いわゆるデザートワイン、極甘口のアイスワインとか貴腐ワインという味になっています。そういったバックグラウンドも見ていただくと分かると思うのです。

後半には、少し話をさせていただきますが、この釧路管内に來たからこそ、いま私の存在、あるいはグループの存在があると強く思っています。ちなみに住民票上は、私は道民です。弟子屈町民なのです。徳永町長が來ると「おお、我が息子」と未だに言われるのです。子どもたちは川湯小学校を卒業して、長男と次男はいま、ハンガリーの医学部に留学をしていて彼らも北海道をなくしては語れない人生なのです。釧路管内ですから、釧路の学校にも子どもたちが遊びに來ています。とても馴染みのある第二の故郷と私はよく言っているのです。そういったバックグラウンドがあるので、そのことも踏まえてこの動画を見ていただくと、後半の私の話が冗長にならないで時間内に終わるかなと思いますので、ご清聴いただければと思います。一旦、席に戻ります。

ビデオ放映

「北見にしかいたことがない」と言った看護部長は、現在、山口、宮崎、高知、名古屋に行き、看護の幹部を育てています。このように全国に法人があつて、法人は20といくつか、施設数は70くらいになると思

います。3年前に比べて3倍くらいの規模になっています。

そもそも、大きくするのが目的というより、先程私が話したように診療報酬ということが限界なのです。ニュースなどでお聞きになることもあるかと思いますが、医療機関は相当が赤字です。ある日突然つぶれることがもっと起こってくる危険性があるのです。国はもう財源をつける気がない。そういう中で、新たな財源を作って行くことがわれわれグループの考えなのです。

もうひとつは、国のモデルとなること。ローカルな、ただ首都圏だけとか北海道だけとかでは国を動かすことができないのです。全国となったときに、医療の行政区域は、北海道厚生局、東北厚生局、関東信越厚生局、東海北陸厚生局、近畿厚生局、中国四国厚生局、九州厚生局となっているのですが、各厚生局管内に最低でも1つずつは拠点を置こうと考えています。

あとは病床数です。日本はクリニックよりも病院の方の規模が大きくなるので、病床数・ベッド数が影響を与える数字ですから、総病床数を1,000ベッド以上にしようと。

あわせて、収益規模、売上規模は100億円以上が全事業所の1パーセント以下ですが、100億円という数字は基準だろうと思っています。

この100億円と1,000ベッド以上はクリアしているのですが、全国厚生局管内というのがまだなのです。近畿厚生局だけがなかったのですが、今年の12月に兵庫の医療機関が入ってくるのが決まっています、これで日本全国の厚生局管内に我々グループの拠点ができるといって、大きなステージをクリアすることができるのです。

もうひとつは、ロゴマークを張ってありますが、厚生局管内ごとに色分けをしています。このような形で、現在は全国展開となっています。

目的は、モデルを作ることと、日本の医療の次の時代です。国民皆保険制度の素晴らしいところをご存知のとおりで、保険証一枚でどんな名医の医療も受けられるわけです。保険証を待ちさえすれば、どんな名医の医療も、神の手の手術も受けられます。しかも低額で。金額は決まっているわけです。公定価格になっています。これって、世界で日本だけなのです。財源さえなんとかなれば、日本の制度は間違いなく世界一なのです。それを作りたいのです。

そのキーになるひとつが自給自足です。他国に依存しない、自活できる形ということで、川湯であれば暖房は温泉熱を利用した床暖房と給湯、そして太陽光発電は売電しないで自家消費の自給です。食に関しても農園園芸課で自給。エネルギーと食の自給をしつつ、次に考えているステップは医療を取り巻く原価・費用になっている部分で事業を内製化することです。医療を

取り巻く事業は全部グループ内で持とうと、医療機関そのものを助けつつ、医療法人は配当を禁止して、がんじがらめなので、そこに株式会社が入って来るとで、例えば、メンテナンスを設備会社が行っているのを株式会社がグループ内の全てを受け持つと、株式会社は青天井なのでそこでの利益・内部留保を運用する。これを保険や金融でこのテクニックを使うと貸金業もできます。もう金融機関にお金を借りなくてもいいわけです。理想は保険まで自らで作ってしまえば、保険証がウチのグループの会員券みたいになってしまいます。

そのように理想の医療を形にするのに財源を作ることと、モデルをわれわれのグループで作って、それを政府に提言していくようなことができればいいと思っています。日本の素晴らしい国民皆保険制度のハイブリット型をわれわれがモデルで作ってしまおうぜ！というのが私たちの動きなのです。

このビジョンは川湯にいる時からずっと言い続けております。キャッチコピーが『現住所、日本・地球』です。「都市部と地方を結んで日本全国、世界」と話していて、今、ひとつひとつが実現してきているのが現状なのです。

後継者の問題がたくさんあります。次々と相談が来るのです。今日も午前中だけで2件ほど相談がありました。なんでもかんでもやる程の力がないので、今は選んでいるのです。そのように話が来るので大きくなるのですが、それが一気に進んでいるのです。2～3年でワーストと西まで行ってしまったのは、釧路管内での経験が大きいのです。

川湯の森病院を承継した時には、まずは裁判の解決だったのです。非常に難しい裁判でした。これを解決して自給する形を作った。組織が180度変わった様子を見て、オホーツクの脳外科しかやっていなかった明生会ですが、そのままでいたら半年でショートしていましたね。そういう状態で引き受けました。最初は相当誤解をされました。「極悪非道の病院転がし」と相当言われました。それがいま変わって、地域になくしてはならない組織になったのです。その経験が相当に生きているのです。

多分、釧路管内に住んでいると分かると思いますが、日本中で医療に関して最も条件が厳しいのが東北北海道だと思います。全国どこに行っても、川湯・北見・網走に比べると「寝ていてもできる対応」と言ったら大袈裟ですが、簡単なことで悩んでいるのですよ。ここで培った経験や人脈や苦しい所で育ってきた幹部が、先ほどの看護部長ではないですけど、力が付いていますから、この人と一緒に行くとしたちどころに解決するのです。すると、「おー、すごいな」となるのです。それに今は、ワインとかコーヒーマシンとか就労支援の障害者福祉も絡めてやっているの、地域産業・地域社会

と連携しながら進めています。

すると、その地域・地域で非常に反響を呼ぶのと同時に喜ばれます。障害者福祉も入ってくる、そしてこれから不登校の子供たちにもつながっていくので、これを実行していくと、「世のため・人のため」がひとつひとつ形になっていきます。そんな動きをしている中で、釧路にいた時、川湯に住んでいた時の経験、網走・北見の苦しい経験、これらがみな生きて今があるということです。今回の『挑戦の軌跡』というお題にさせていただいた次第です。

「サバ缶」も四国の高知県四万十市での就労支援と魚市場とタッグを組んで作った物です。市場の数字が改善して、病院と就労支援と魚市場、これに市と県も絡んで来るのです。

サバ缶については、当財団の食事業部の本部長でもあり事務部長でもある彼は、カルフォルニア大学ロサンゼルス校卒業の元数学者です。日本橋にあるマンダリン・オリエンタル東京のオープニングの時のメンバーのひとりです。彼がそのサバ缶のレシピを作っているので、めちゃくちゃ美味しいです。サバ缶は今日、持って来ていませんけど、次回に 100 人分用意しますので。赤い八丁味噌は赤ワイン、日本酒が合います。オイル煮醤油味のほうは白ワインです。お届けしますので、次回の夜間例会はお楽しみにしてください。

現住所は「日本」、勤務地は「地球」、経営は「国造り」と最近は言っております。国造りと言ったとたん「不可能」という三文字がなくなると私は思っています。時間の感覚として 1 カ月を 1 年と考えると 1 年が 12 年、5 年が 60 年、10 年が 120 年分となるのです、感覚として。120 年とするとさすがに「できないことはない」気がするではないでしょうか。自分の気持ちを未来に向けながら、あらゆる問題をポジティブにとらえて「行動あるのみ」と「為せば成る」で進んでまいります。

引き続きご指導をいただければと思います。今日はありがとうございました。

本日のニコニコ献金

■荒井 剛君 今年も昨年に引き続き、中二の娘が北海道女子野球選抜に無事合格しました。

今年度累計 54,000 円